
Device Set-Up

ユーザーズガイド

目次

本製品について	iii
登録商標および商標	iv
1 はじめに	
1.1 動作環境	1-1
1.2 主な機能	1-2
2 事前の準備	
2.1 OpenAPI の設定	2-1
操作手順	2-1
2.2 Device Set-Up のインストール	2-2
操作手順	2-2
2.3 アンインストールする場合	2-6
3 Device Set-Up の使い方	
3.1 オートプロテクト機能を設定する	3-1
操作手順	3-1
設定を変更する場合	3-2
3.2 メイン画面について	3-3
メイン画面メニュー一覧	3-4
メイン画面のアイコン / タブ一覧	3-5
4 対応装置の登録	
4.1 対応装置の検索	4-1
検索して登録	4-1
IP アドレスを指定して登録	4-4
機能アクセス制限ファイルから登録	4-6
ローカルファイルを登録	4-9
検索範囲を設定する	4-11
登録済み装置の編集	4-14
登録済み装置の削除	4-16
5 その他の機能	
5.1 ネットワーク初期設定	5-1
装置のネットワーク初期設定をする	5-1

5.2	装置リストのエクスポート / インポート	5-5
	装置リストのエクスポート	5-5
	装置リストのインポート	5-7
	装置リストの旧バージョンからのインポート	5-9
5.3	機能アクセス制限ファイルの設定	5-11
	機能アクセス制限ファイルを新規作成する	5-11
	機能アクセス制限ファイルに装置を追加する	5-14
	機能アクセス制限ファイルを編集する	5-16
	機能アクセス制限ファイルから装置情報を削除する	5-17
5.4	グループの設定	5-18
	グループを新規作成する	5-18
	グループを編集する	5-19
	グループを削除する	5-20
	デフォルトグループを設定する	5-21
5.5	LDAP サーバーのアクセス設定	5-22
	LDAP サーバーのアクセス設定を追加する	5-22
	LDAP サーバーのアクセス設定を編集する	5-25
	LDAP サーバーのアクセス設定を削除する	5-25
5.6	表示オプションの設定	5-26
	オプション全般画面の開き方	5-26
5.7	ヘルプの表示	5-29
	ヘルプの開き方	5-29
5.8	バージョン情報を表示する	5-30
	操作手順	5-30

登録商標および商標

Active Directory、Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel および Pentium は、アメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションおよび子会社の登録商標または商標です。

Microsoft®、Windows® は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。



ワンポイント

装置や設定および使用するコンピューターによって、本書に記載されている画面の内容と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。



ご注意

本書の一部またはすべての内容を、無断で複製したり、他言語に翻訳したり、引用したりすることは、固くお断りします。

本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。

Copyright © 2008 KONICA MINOLTA, INC. All rights reserved.

1 はじめに

1.1 動作環境

本ソフトウェアを使用するには、以下の仕様を満たすシステムが必要です。

OS	Windows Vista Enterprise (SP2 以降) * Windows Vista Business (SP2 以降) * Windows Vista Ultimate (SP2 以降) * Windows 7 Enterprise (SP1 以降) * Windows 7 Professional (SP1 以降) * Windows 7 Ultimate (SP1 以降) * Windows 8.1 Pro * Windows 8.1 Enterprise * Windows 10 Pro * Windows 10 Enterprise * Windows 10 Education * * 32 ビット (x86)/64 ビット (x64) 環境に対応。
コンピューター	使用 OS の推奨動作環境に準ずる
メモリー (RAM)	使用 OS の推奨動作環境に準ずる
ハードディスク ドライブの空き容量	100 MB 以上
ディスプレイ	800 × 600 ピクセル、16 ビットカラー以上
ネットワーク	TCP/IP プロトコル
Web ブラウザー	Microsoft Internet Explorer 各 OS がサポートする最新バージョン
ライブラリー	Microsoft .NET Framework: 以下のバージョンが両方とも必要 です。 ・ .NET Framework 3.5 (SP1 以降) ・ .NET Framework 4.5 以降 * Windows 8.1、Windows 10 をお使いの場合は、以下の手順に 従って、.NET Framework 3.5 を別途インストールしてください。 1. [コントロールパネル] を開き、[プログラム] - [プログラム と機能] - [Windows の機能の有効化または無効化] をクリック します。 2. 「.NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)」に チェックを付け、[OK] をクリックします。 3. OS の指示に従ってインストールを完了します。
対応装置	複合機およびプリンター (プラグインアプリケーションの対応装 置) については、各プラグインアプリケーションの Readme を参 照してください。

最新の動作環境については Readme を参照してください。



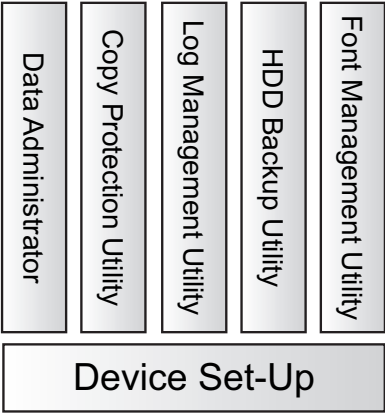
ワンポイント

本ソフトウェアを使用するには、装置のパネル上から管理者設定 - システム連携 - OpenAPI 設定を有効にする必要があります

1.2 主な機能

Device Set-Up は、以下のプラグインをインストールすることで、ネットワーク上の複合機の情報を取得したり、設定を変更したりすることができます。

プラグイン	説明
Data Administrator	ネットワーク上の複合機（対応装置）の認証機能や宛先機能を、ネットワーク上のコンピューターから編集／登録するのに使用する、管理用のツールです。
HDD Backup Utility	ネットワーク上の複合機（対応装置）に搭載されている記録メディアの、バックアップ（保存）とリストア（復元）を行うユーティリティです。
Log Management Utility	ネットワーク上の複合機（対応装置）にアクセスし、装置内に蓄積されているログ（監査ログ、通信履歴などの装置上で行なわれた操作や処理の記録）を表示します。装置の使用状況の管理やトラブルの原因追跡に利用できます。
Font Management Utility	ネットワーク上の複合機（対応装置）にフォントや印刷用のフォームを追加、削除するためのユーティリティです。
Copy Protection Utility	ネットワーク上の複合機（対応装置）にコピープロテクトとスタンプの情報を設定するためのユーティリティです。



2 事前の準備

2.1 OpenAPI の設定

プラグインアプリケーションによっては、OpenAPI を使用するものがあるので、その場合、事前に下記設定を装置側で行なう必要があります。

操作手順

Device Set-Up をインストールする前に、装置上で OpenAPI の設定を行います。

- 必要に応じて、装置の操作パネルから、OpenAPI のログイン名とパスワードを設定します。
 - 装置の操作パネルから OpenAPI を設定する方法は、お使いの装置のユーザーズガイドを参照してください。



ご注意

SSL 通信を行う場合は、お使いの装置のユーザーズガイドにしたがって設定してください。

2.2 Device Set-Up のインストール

お使いのコンピュータに Device Set-Up をインストールします。



ご注意

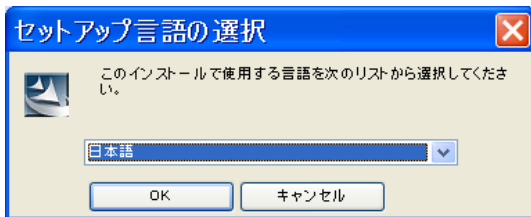
Device Set-Up をインストールするには、Microsoft .NET Framework をインストールしておく必要があります。Microsoft .NET Framework のバージョンは、使用する OS によって異なります。詳しくは、p. 1-1 をごらんください。

インストールするときは、Windows の管理者権限で行う必要があります。

起動しているアプリケーション（ウイルスチェックプログラムを含む）がある場合は、すべて終了しておいてください。

操作手順

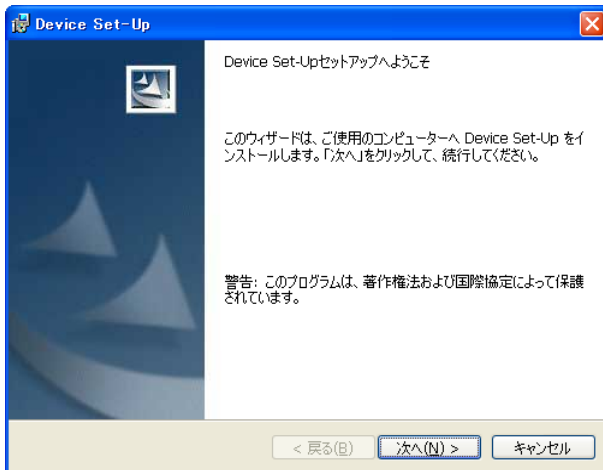
- 1 インストールしたいプラグインアプリケーションの Setup.exe をダブルクリックします。
- 2 言語を選択して [OK] をクリックします。



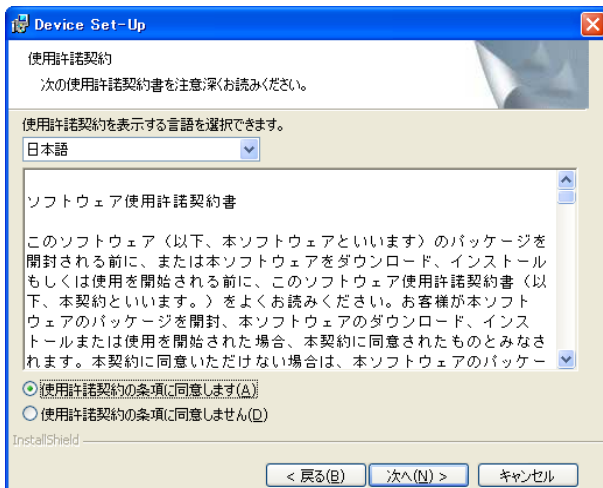
- 3 プラグインアプリケーションをインストールする前に Device Set-Up をインストールするメッセージが表示されるので、[OK] をクリックします。



4 「次へ」 をクリックします。

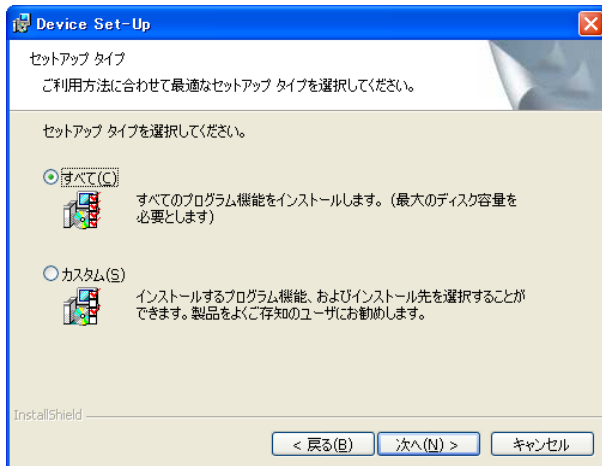


5 ソフトウェア使用許諾契約書に同意する場合は、[使用許諾契約の条項に同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。



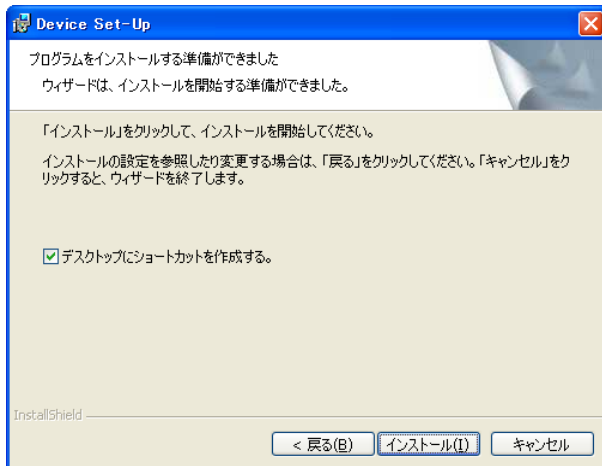
- ソフトウェア使用許諾契約書に同意しない場合は、本ソフトウェアを使用できません。

- 6 インストール先のフォルダーを指定する画面が表示されるので、インストール先のフォルダーを指定して[次へ]をクリックします。
 - インストール先を変更する場合は[変更]をクリックしてインストール先を指定します。
 - インストール先を変更しない場合は、画面に表示されているフォルダーにインストールされます。
- 7 セットアップタイプを選択して[次へ]をクリックします。



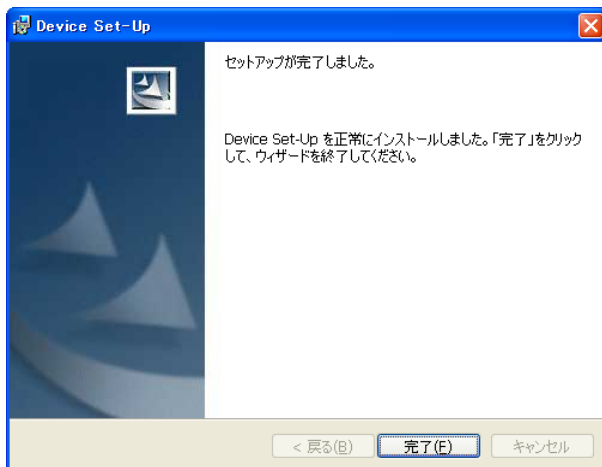
- [すべて]を選択した場合は、すべての機能がインストールされます。
- [カスタム]を選択した場合は、プログラム機能およびインストール先を選択できます。

8 「インストール」 をクリックします。



- デスクトップにショートカットを作成する場合は、[デスクトップにショートカットを作成する] にチェックをいれます。

9 「完了」 をクリックします。



インストールが完了します。

続けて、プラグインアプリケーションのインストールを行います。
プラグインアプリケーションのインストール手順はそれぞれのユーザーズガイドをごらんください。

2.3 アンインストールする場合

Device Set-Up のアンインストールする方法は以下の通りです。

- 「コントロール パネル」 - 「プログラムと機能」を使用する



...

ご注意

アンインストールを行うときは、Device Set-Up のプログラムを終了しておいてください。

3 Device Set-Up の使い方

ここでは Device Set-Up を初めて起動したときに必要な設定とその手順を説明します。

3.1 オートプロテクト機能を設定する

アプリケーションの不正使用防止のために、起動パスワードとタイムアウト時間を設定できます。本ユーティリティを操作しない時間が、設定したタイムアウト時間を超えると、自動的にアプリケーションがロックされます。起動パスワードを入力するとロックは解除されます。

操作手順

- 1 Windows のスタートメニューから、Device Set-Up を起動します。
 - [スタート] メニューから [Device Set-Up] を選択します。
アプリケーション保護の設定画面が表示されます。
- 2 [オートプロテクトを使用する] を選択します。
- 3 「タイムアウト時間」と「パスワード」を設定します。
 - 2 回目以降は、この画面は表示されません。メイン画面が表示されます。

アプリケーション保護の設定

ようこそ、Data Administratorへ！

このソフトウェアを不正に使用されないように起動パスワードの設定をして下さい。設定した時間操作されないと、このソフトウェアはパスワードでロックされます。

☒ オートプロテクトを使用する(U)

タイムアウト時間(T): 30分後

パスワード(P): **** (ASCII 4-8 文字)

パスワード確認(C): ****

☐ オートプロテクトを使用しない(U)

[ヘルプ\(F1\)](#) OK

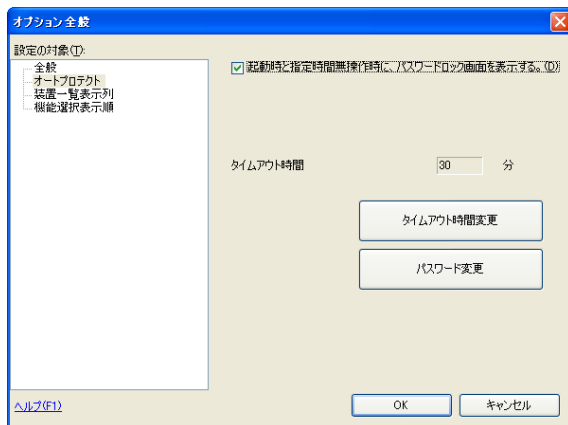
4 [OK] をクリックします。

オートプロテクト機能が設定され、メイン画面が表示されます。

設定を変更する場合

オートプロテクト機能の設定を変更できます。オートプロテクト機能の変更はメイン画面のメニューから行います。

- 1 メイン画面の [ツール] - [オプション] - [全般] をクリックします。
- 2 [設定の対象] から [オートプロテクト] を選択します。



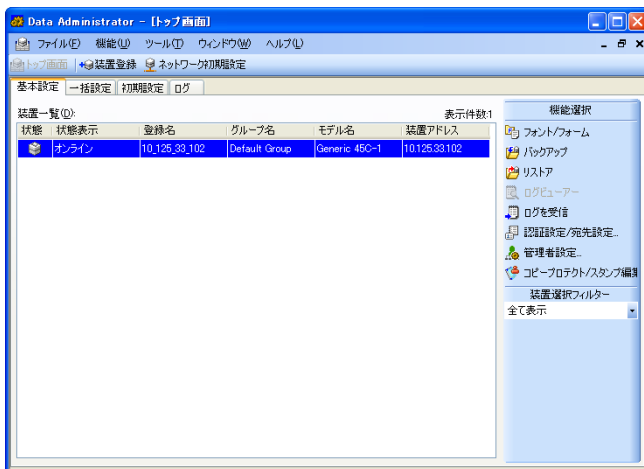
3 オートプロテクト設定を変更し、[OK] をクリックします。

- オートプロテクト機能をオフにする場合は、チェックボックスのチェックをはずします。
- タイムアウト時間を変更する場合は、[タイムアウト時間変更] をクリックして設定を変更します。
- 起動パスワードを変更する場合は、[パスワード変更] をクリックして変更します。

設定が変更され、メイン画面に戻ります。

3.2 メイン画面について

Device Set-Up を起動すると、メイン画面が表示されます。



ご注意

上の画面は、各プラグインがインストールされている状態の画面です。プラグインのインストールによって画面表示が異なる場合があります。




Device Set-Up では、この画面からネットワーク上の複合機（対応装置）の検索、登録、編集などを行います。

その他の機能については、各プラグインをインストールする必要があります。各プラグインの機能については、それぞれのユーザーズガイドをごらんください。

メイン画面メニュー一覧

メニュー		説明	
ファイル	装置リスト	装置リストのインポート / エクスポートを行います。	
	終了	アプリケーションを終了します。	
機能	コピー / プロテクトスタンプ編集		Copy Protection Utility プラグインをインストールすると使用できます。
	フォント / フォーム		Font Management Utility プラグインをインストールすると使用できます。
	バックアップ		HDD Backup Utility をインストールすると使用できます。
	リストア		HDD Backup Utility をインストールすると使用できます。
	ログビューアー		Log Management Utility プラグインをインストールすると使用できます。
	ログ受信		Log Management Utility プラグインをインストールすると使用できます。
	認証設定 / 宛先設定		Data Administrator プラグインをインストールすると使用できます。
	管理者設定		Data Administrator プラグインをインストールすると使用できます。
	一括設定		各機能の一括処理を行います。
	ログ		Log Management Utility プラグインをインストールすると使用できます。
	初期設定		装置に接続せずにローカルに設定ファイルを保存します。
	ツール	オプション	
装置		装置登録	装置の登録を開始します。
		登録グループ編集	グループ設定を開始します。
		ネットワーク初期設定	登録装置のネットワーク初期設定を行います。
LDAP サーバー設定		LDAP サーバーを設定します。	
機能アクセス制限		新規作成	アクセス制限ファイルを作成します。
	開く	作成したアクセス制限ファイルを開きます。	
ウィンドウ	表示	トップ画面表示	トップ画面が表示されます。
		アクセス履歴表示	アクセス履歴表示画面が表示されます。
	重ねて表示		メイン画面内の画面を重ねて表示します。
	左右に並べて表示		メイン画面内の画面を左右に並べて表示します。
	上下に並べて表示		メイン画面内の画面を上下に並べて表示します。
ヘルプ	ヘルプ		各プラグインのヘルプを表示します。
	バージョン情報		Device Set-Up のバージョンを表示します。

メイン画面のアイコン / タブ一覧

アイコン / タブ	説明
 トップ画面	トップ画面として登録された画面を表示します。
 装置登録	装置の登録を開始します。
 ネットワーク初期設定	登録装置のネットワーク初期設定を行います。
基本設定タブ	装置一覧を表示します。また画面右側の「機能選択」から機能を選択できます。
一括設定タブ	各機能の一括処理を行います。 インストールしているプラグインによって表示内容が異なります。
ログタブ	ログについての操作を行います。Log Management Utility をインストールしておく必要があります。
初期設定タブ	装置に接続せずにローカルに設定ファイルを保存します。
機能選択フィールド	使用可能な機能が選択できます。 装置選択フィルターで対応機能の装置をリストアップすることもできます。

4 対応装置の登録

Device Set-Up では、ネットワーク上の対応装置を検索して登録することができます。登録された対応装置は、各プラグインで各種設定を行うことができます。

4.1 対応装置の検索

対応装置の検索 / 登録方法として、以下の方法があります。


- ネットワーク上の装置を検索する方法
- IP アドレスを指定して検索する方法
- 機能アクセス制限ファイルから登録する方法
- ローカルファイルを登録する方法

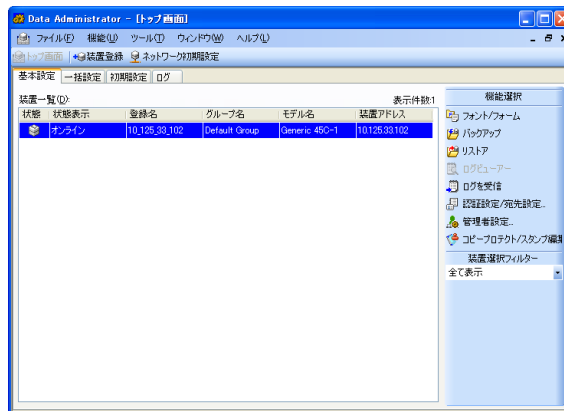


ワンポイントアドバイス

ネットワーク上の装置を検索する場合は、検索範囲を設定することもできます。

検索して登録

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2  **装置登録** をクリックします。

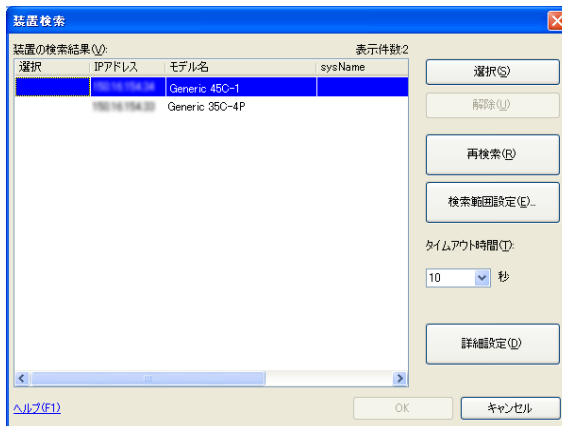


3 「検索して登録」をクリックします。



検索結果が装置検索画面の一覧に表示されます。

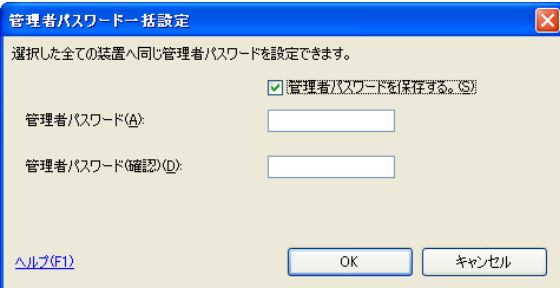
4 登録する装置を選択して「選択」をクリックします。



○ 再検索する場合は、「再検索」をクリックします。

5 「OK」をクリックします。

- 6 デバイスの管理者パスワードを入力する必要がある場合は、パスワードを入力して「OK」をクリックします。



管理者パスワード一括設定

選択した全ての装置へ同じ管理者パスワードを設定できます。

☒ 管理者パスワードを保存する。(S)

管理者パスワード(A):

管理者パスワード確認(Q):

[ヘルプ\(F1\)](#)

- 7 登録処理結果画面で「閉じる」をクリックします。



登録処理結果

処理結果(P): 表示件数:1

状態	装置アドレス	モデル名
 成功	000000000000	Generic 350-4P

[ヘルプ\(F1\)](#)

- 8 「閉じる」をクリックします。

選択した装置が登録されます。




ご注意)

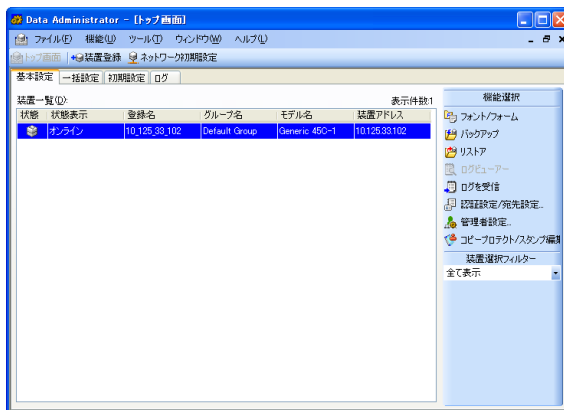
登録した装置がメインウィンドウの装置一覧に表示されるまで 2 分以上かかる場合があります。

■ 装置が検索できない場合：

ファイアウォールの設定で例外プログラムとして設定されていない可能性があります。PC のネットワーク設定のファイアウォール設定で、本アプリケーションを例外プログラムとして設定してください。

IP アドレスを指定して登録

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2  装置登録 をクリックします。



- 3 「追加」 をクリックします。



- 4 装置アドレスに IP アドレスを入力して [OK] をクリックします。

- 5 装置情報画面が表示されたら、内容を確認して [OK] をクリックします。

- 6 [閉じる] をクリックします。

指定した IP アドレスの装置が登録されます。




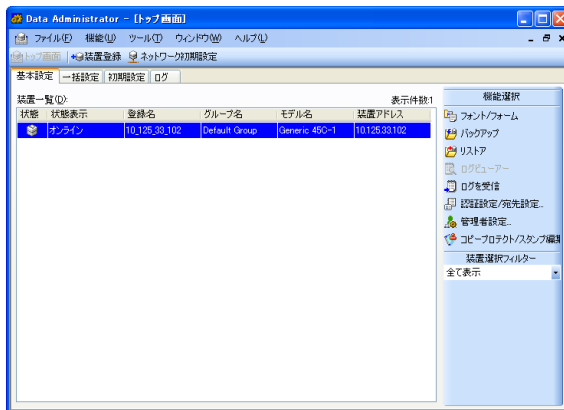
ご注意

登録した装置がメインウィンドウの装置一覧に表示されるまで 2 分以上かかる場合があります。

機能アクセス制限ファイルから登録

あらかじめ書き出している機能アクセス制限ファイルから対応装置を登録できます。機能アクセス制限ファイルの作成については p. 5-11 をご覧ください。

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2  装置登録 をクリックします。

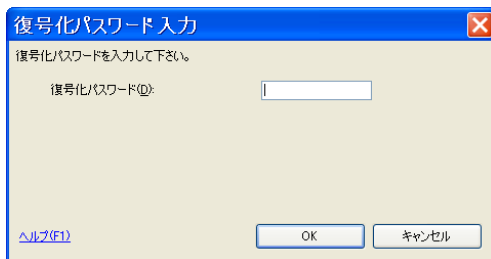


- 3 「機能アクセス制限ファイルから登録」をクリックします。

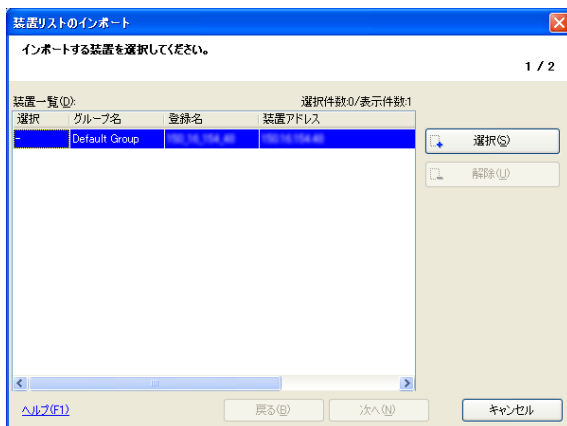


- 4 機能アクセス制限ファイルを選択し「開く」をクリックします。

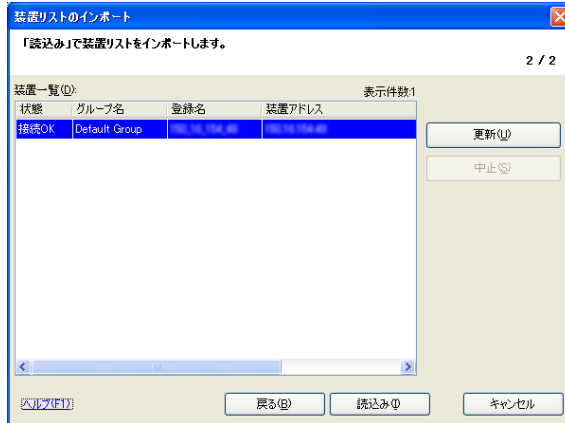
- 5 復号化パスワードを入力して [OK] をクリックします。



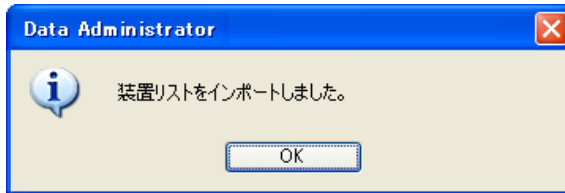
- 6 アクセス制限の解除確認画面が表示されるので [はい] をクリックします。
- 7 編集用パスワードを入力して [OK] をクリックします。
- 8 インポートする装置を選択して [選択] をクリックし、[次へ] をクリックします。



9 「読み込み」 をクリックします。



10 [OK] をクリックします。



装置が登録されます。



ご注意)

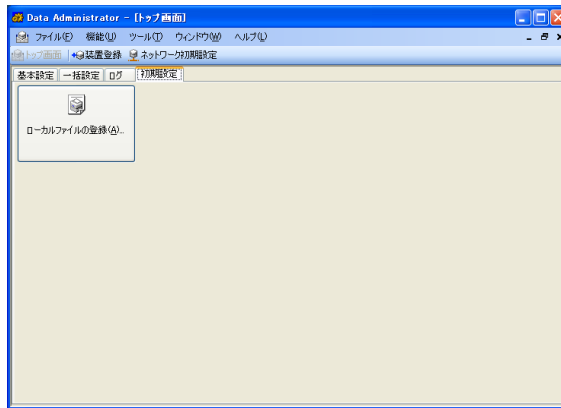
登録した装置がメインウィンドウの装置一覧に表示されるまで 2 分以上かかる場合があります。

ローカルファイルを登録

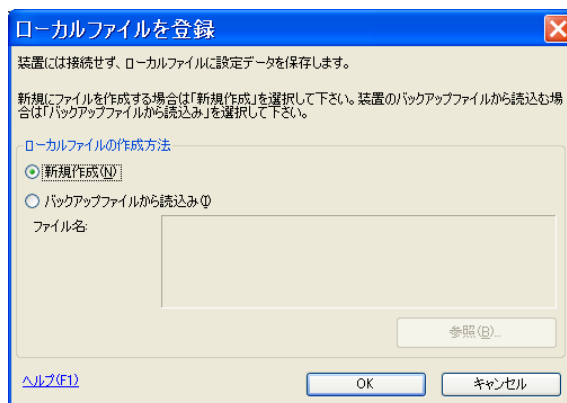
装置に接続せずローカルファイルに作成した設定情報を登録します。

- ✓ ローカルファイルを登録するには、Data Administrator がインストールされている必要があります。

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をごらんください。
- 2 [初期設定] タブをクリックし、[ローカルファイルの登録] を選択します。

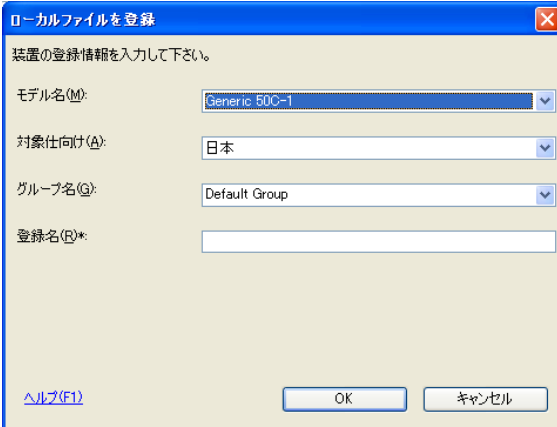


- 3 [新規作成] を選択します。



- バックアップファイルを読み込む場合は [バックアップファイルから読み込み] を選択して [参照] をクリックし、バックアップファイルを指定して読み込みます。

- 4 [OK] をクリックします。
- 5 登録情報をすべて入力して [OK] をクリックします。



ローカルファイルを登録

装置の登録情報を入力して下さい。

モデル名(M): Generic 50G-1

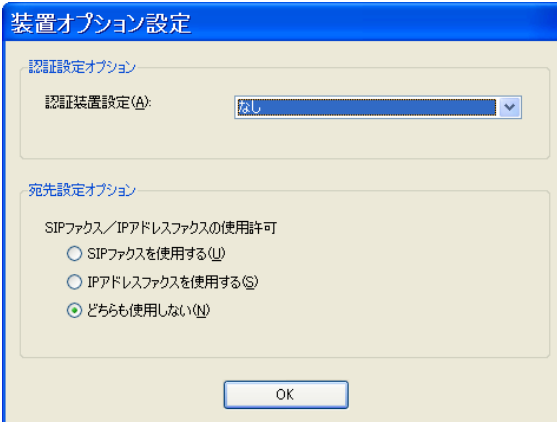
対象仕向け(A): 日本

グループ名(G): Default Group

登録名(B)*:

[ヘルプ\(F1\)](#) [OK] [キャンセル]

- 6 オプション設定が必要な装置を選択した場合は、装置のオプション設定を指定して [OK] をクリックします。



装置オプション設定

認証設定オプション

認証装置設定(A): なし

宛先設定オプション

SIPファクス／IPアドレスファクスの使用許可

☐ SIPファクスを使用する(U)

☐ IPアドレスファクスを使用する(S)

☒ どちらも使用しない(N)

[OK]


- 7 登録確認メッセージが表示されるので [OK] をクリックします。
装置が登録されます。

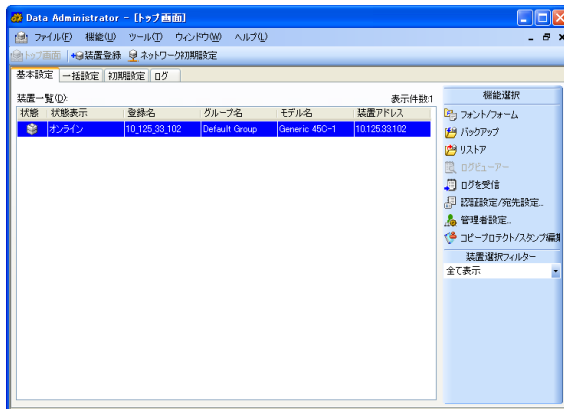


ご注意)

登録した装置がメインウィンドウの装置一覧に表示されるまで 2 分以上かかる場合があります。

検索範囲を設定する

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2  装置登録 をクリックします。

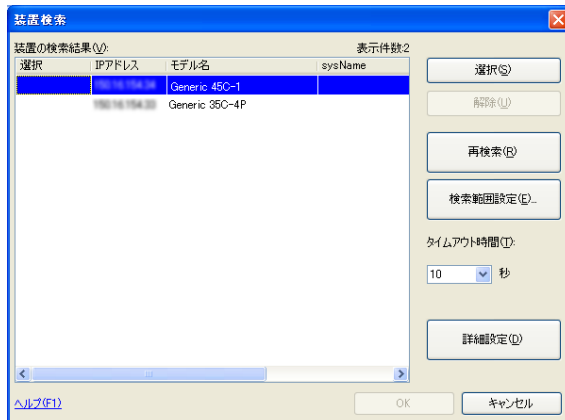


- 3 「検索して登録」 をクリックします。



検索結果が装置検索画面の一覧に表示されます。

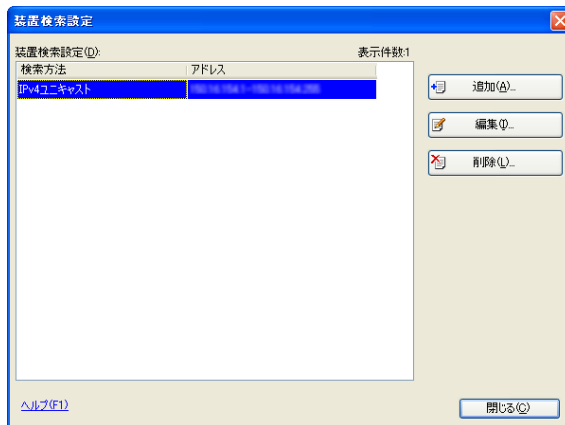
4 「検索範囲設定」をクリックします。



○ 「詳細設定」:

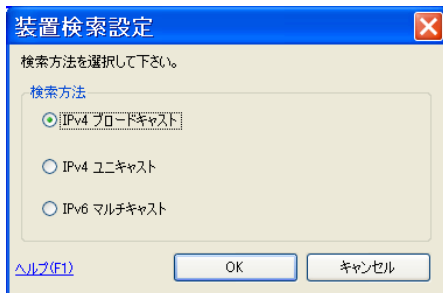
装置検索で装置アドレスの登録の優先順位を指定します。なお、ここで指定した優先順位は、「装置アドレス更新」で装置アドレスの更新を行なう場合も適用されます。

5 「追加」をクリックします。

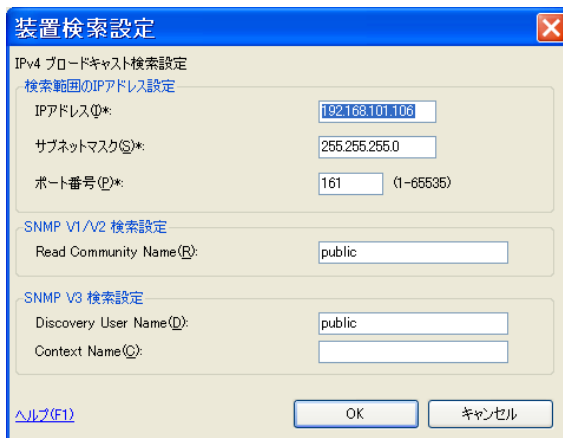


- 登録済みの検索設定を変更するには「編集」をクリックします。
- 登録済みの検索設定を削除するには「削除」をクリックします。

- 6 検索方法を選択して [OK] をクリックします。



- 7 検索範囲の IP アドレス、サブネットマスク、ポート番号、SNMP V1/V2/V3 の設定をして、[OK] をクリックします。




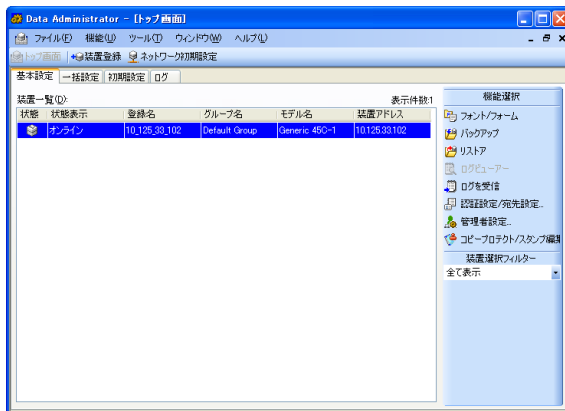
- 8 追加された検索設定をリストから選択し、[閉じる] をクリックします。

検索設定が設定されます。

- 設定された検索設定で検索する場合は、[再検索] をクリックします。

登録済み装置の編集

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2  装置登録 をクリックします。



- 3 設定を変更したい装置を選択して「編集」をクリックします。



4 設定内容を変更して [OK] をクリックします。

装置情報編集 - 10.125.33.102

設定グループ(G):

- 基本設定
- 装置アドレス
- OpenAPI
- TCPソケット
- SNMP
- Rawポート
- ログ管理設定

装置アドレス: 10.125.33.102 [変更(C)...]

グループ名(G): Default Group

登録名(R)*: 10_125_33_102

モデル名: Generic 45C-1

装置名:

☐ 管理者/パスワードを保存する。(S)

管理者/パスワード(A):

管理者/パスワード(確認)(Q):


☒ 装置一覧にこの装置を表示する(O)

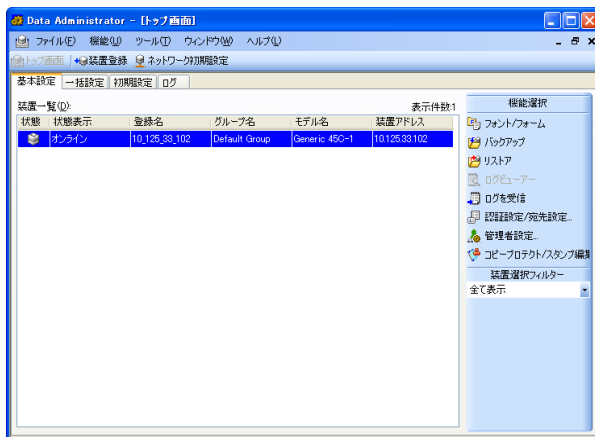
ヘルプ(F1)

OK キャンセル

装置の設定が変更されます。

登録済み装置の削除

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2  装置登録 をクリックします。



- 3 削除したい装置を選択して「削除」をクリックします。



- 4 削除の確認画面が表示されるので「はい」をクリックします。



装置の登録が削除されます。

5 その他の機能


Device Set-Up では、対応装置の登録以外に以下の設定ができます。

- ネットワーク初期設定
- 装置リストのインポート / エクスポート
- グループの設定
- 機能アクセス制限ファイルの設定
- LDAP サーバーのアクセス設定
- 表示オプションの設定

5.1 ネットワーク初期設定

ネットワーク上の装置を検索して、ネットワークの初期設定をします。

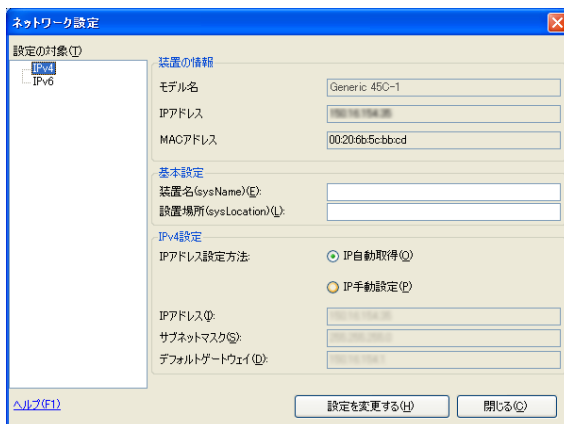
装置のネットワーク初期設定をする

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をごらんください。
- 2  ネットワーク初期設定 をクリックします。
 - 装置の検索範囲が設定されていない場合、[検索範囲設定] をクリックし、検索範囲を追加します。検索範囲設定については、p. 4-11 をごらんください。
 - 装置の検索が開始され、ネットワーク初期設定画面のリストに、検索された装置が表示されます。

- 3 ネットワーク初期設定をする装置をリストから選択し、[ネットワーク設定] をクリックします。



- 4 必要な項目を設定し、[設定を変更する] をクリックします。



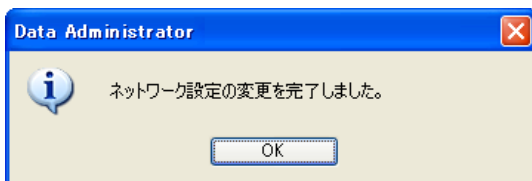
装置の情報	装置に現在設定されているモデル名、IP アドレス、MAC アドレスが表示されます。
装置名 (sysName)	装置の名前を入力します。
設置場所 (sysLocation)	装置が設置されている場所を入力します。
IP 自動取得	装置の IP アドレスを、DHCP サーバーにより自動的に設定する場合に選択します。
IP 手動設定	このラジオボタンを選択すると、以下のテキストボックスが有効になり、装置の IP アドレスを設定できます。
IP アドレス	装置の IP アドレスを入力します。

サブネットマスク	装置のサブネットマスクを入力します。
デフォルトゲートウェイ	装置のデフォルトゲートウェイを入力します。

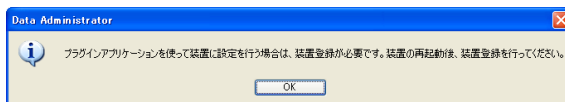
5 確認メッセージが表示されたら [はい] をクリックします。



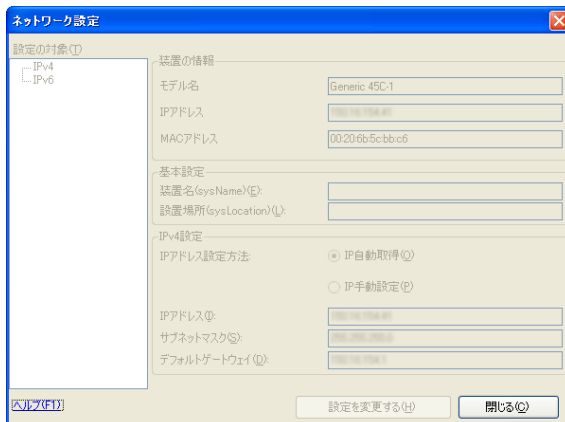
6 [OK] をクリックします。



7 [OK] をクリックします。



8 [閉じる] をクリックします。





...

ワンポイント

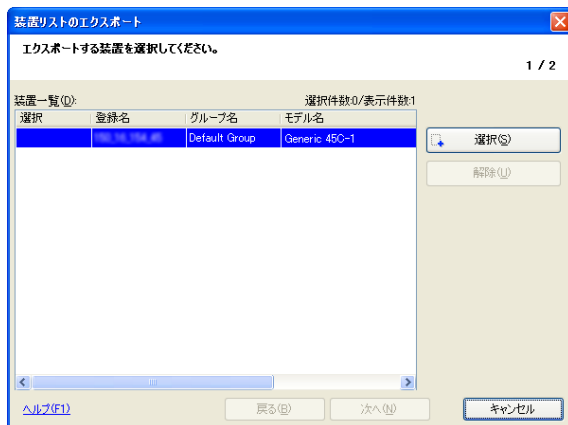
ネットワーク初期設定を行っただけでは、Device Set-Up で装置を管理することはできません。装置を管理するには、装置を登録してください。詳しくは、「4 対応装置の登録」をごらんください。

5.2 装置リストのエクスポート / インポート

Device Set-Up では装置リストのインポート / エクスポートが行えます。

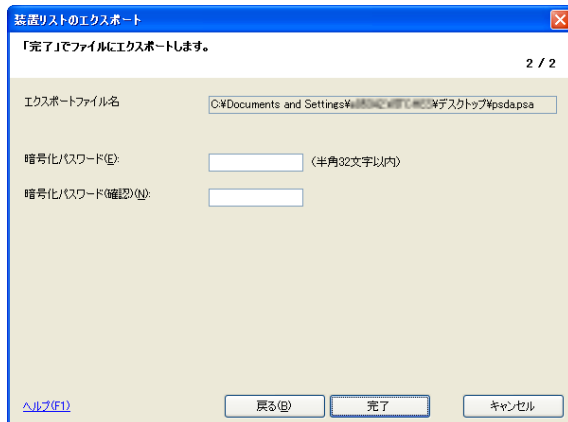
装置リストのエクスポート

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ファイルメニューから「装置リスト」 - 「エクスポート」を選択します。
- 3 エクスポートするファイル名を入力し、保存先を指定して「保存」をクリックします。
- 4 エクスポートする装置を選択して「選択」をクリックします。



- 5 「次へ」をクリックします。

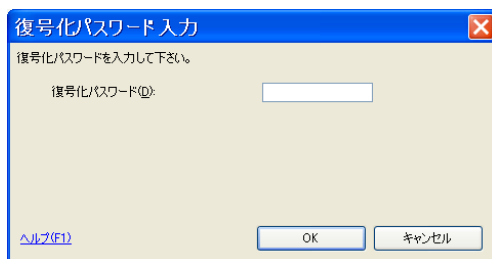
- 6 暗号化パスワードを入力して「完了」をクリックします。



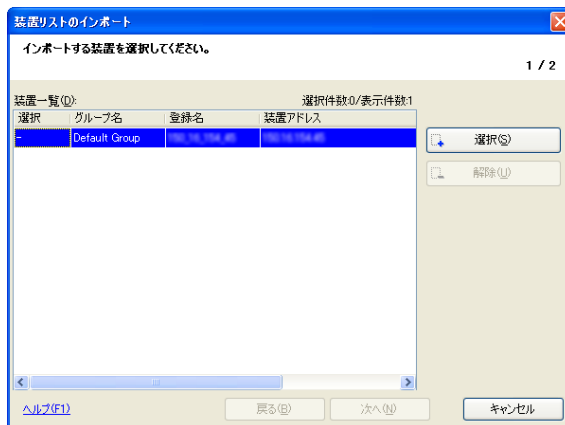
- 7 確認メッセージが表示されるので「OK」をクリックします。
装置リストがエクスポートされます。(拡張子：psa)

装置リストのインポート

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ファイルメニューから「装置リスト」 - 「インポート」を選択します。
- 3 インポートするファイルを選択し、「開く」をクリックします。
- 4 復号化パスワードを入力して「OK」をクリックします。



- 5 インポートする装置を選択して「選択」をクリックします。

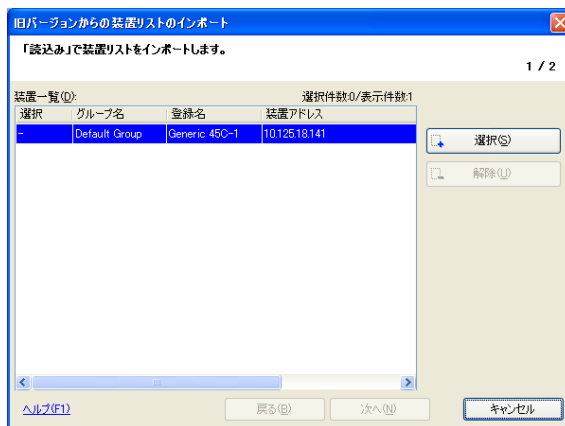


- 6 「次へ」をクリックします。
- 7 「読み込み」をクリックします。
 - 「接続 OK」が表示されていない場合、「更新」をクリックします。

- 8 確認メッセージが表示されたら [OK] をクリックします。
装置情報がインポートされます。

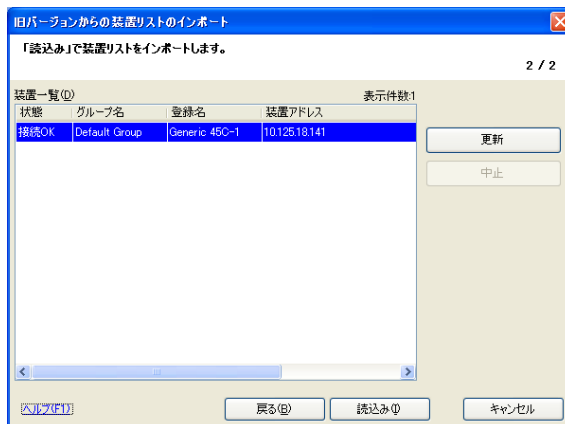
装置リストの旧バージョンからのインポート

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ファイルメニューから「装置リスト」 - 「旧バージョンからインポート」を選択し、以下のいずれかの旧バージョンのツールを選択します。
 - Copy Protection Utility
 - Font Management Utility
 - HDD Backup Utility
 - Log Management Utility
 - Data Administrator
- 3 読み込みたい装置を選択して「選択」をクリックします。



- 4 「次へ」をクリックします。

5 「読み込み」をクリックします。



- 「更新」をクリックすると装置一覧の状態が更新されます。
- 「中止」をクリックすると装置一覧の状態の更新を中止します。
装置一覧の状態が「接続 OK」の装置のみ装置リストに読み込まれます。

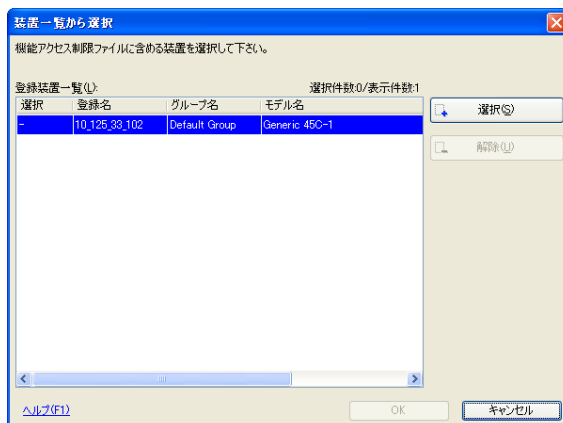
旧バージョンの装置リストが読み込まれます。

5.3 機能アクセス制限ファイルの設定

機能アクセス制限ファイルに装置を登録します。機能アクセス制限ファイルを使用すると、装置の一部の機能（宛先設定など）を管理者パスワード無しで設定することができます。

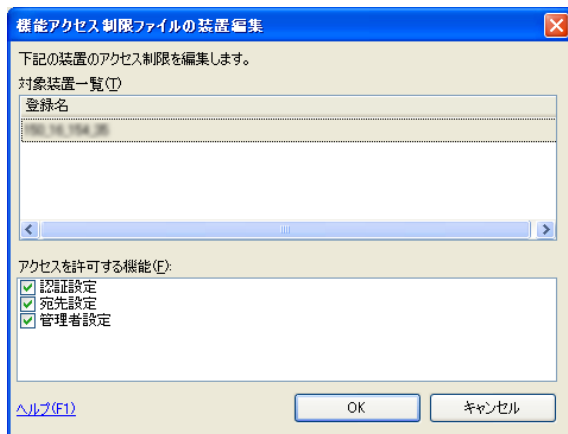
機能アクセス制限ファイルを新規作成する

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - o メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから「機能アクセス制限」 - 「新規作成」を選択します。
- 3 機能アクセス制限ファイルを設定したい装置を選択して「選択」をクリックします。



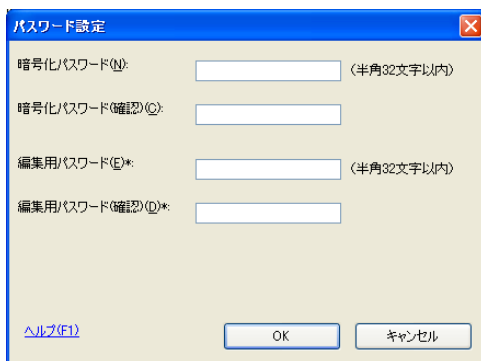
- 4 「OK」をクリックします。

- 5 アクセスを許可する機能をチェックして [OK] をクリックします。



認証設定	認証設定へのアクセスを許可する場合はチェックします。
宛先設定	宛先設定へのアクセスを許可する場合はチェックします。
管理者設定	管理者設定へのアクセスを許可する場合はチェックします。

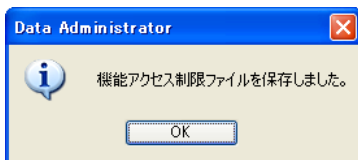
- 6 [名前をつけて保存] をクリックして、保存先を指定し、[保存] をクリックします。
- 7 暗号化パスワードおよび復号化パスワードを設定し、[OK] をクリックします。



暗号化パスワード	機能アクセス制限ファイルを開くためのパスワードを入力します。
暗号化パスワード（確認）	確認のためにパスワードを再入力します。

編集用パスワード	機能アクセス制限ファイルを編集するための編集用パスワードを入力します。
編集用パスワード（確認）	確認のために編集用パスワードを再入力します。

8 [OK] をクリックします。



機能アクセス制限ファイルが保存されます。

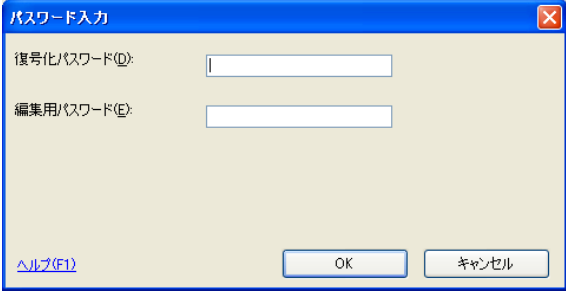


ワンポイントアドバイス

機能アクセス制限ファイルから装置を登録する方法については、
p. 4-6 をご覧ください。

機能アクセス制限ファイルに装置を追加する

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから「機能アクセス制限」 - 「開く」を選択します。
- 3 装置を追加したい機能アクセス制限ファイルを選択して「開く」をクリックします。
- 4 復号化パスワードおよび編集用パスワードを入力し「OK」をクリックします。



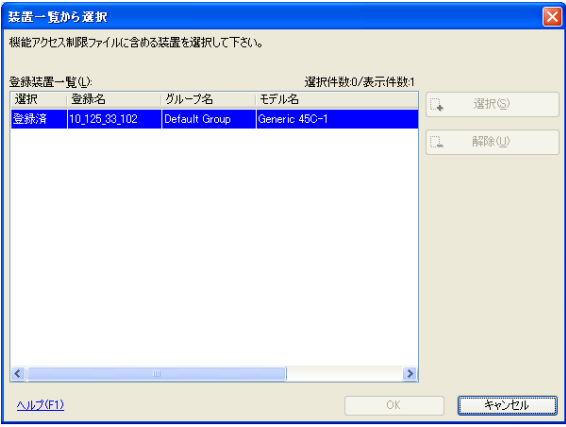
パスワード入力

復号化パスワード(D):

編集用パスワード(E):

[ヘルプ\(F1\)](#)

- 5 「装置選択」をクリックします。
- 6 装置一覧から追加する装置を選択して「選択」をクリックし「OK」をクリックします。



装置一覧から選択

機能アクセス制限ファイルに含める装置を選択して下さい。

登録装置一覧(L) 選択件数0/表示件数1

選択	登録名	グループ名	モデル名
登録済	10_125_33_102	Default Group	Generic 450-1

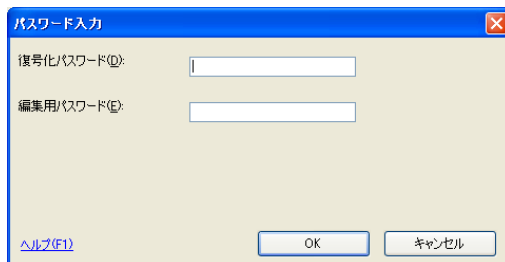
[ヘルプ\(F1\)](#)

- 7 「閉じる」をクリックします。

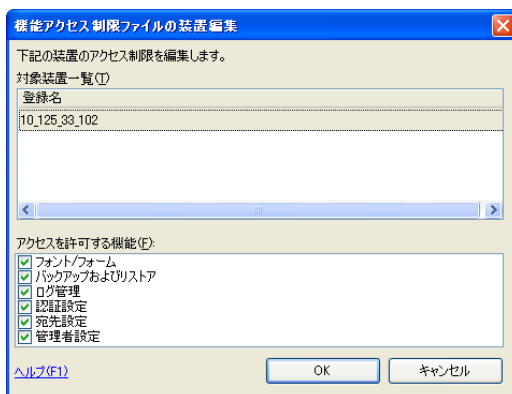
- 必要に応じて「編集」をクリックし、機能アクセス制限を設定します。
- 8 「名前を付けて保存」をクリックして、ファイルを保存します。
機能アクセス制限ファイルの装置が追加されます。

機能アクセス制限ファイルを編集する

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから「機能アクセス制限」 - 「開く」を選択します。
- 3 編集したい機能アクセス制限ファイルを選択して「開く」をクリックします。
- 4 復号化パスワードおよび編集用パスワードを入力し「OK」をクリックします。



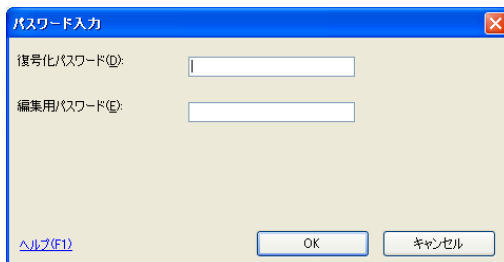
- 5 編集したい装置を選択して「編集」をクリックします。
- 6 アクセスを許可する機能を変更して「OK」をクリックします。



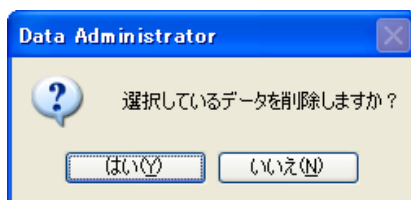
- 7 「名前を付けて保存」をクリックして、ファイルを保存します。
機能アクセス制限ファイルの内容が変更されて保存されます。

機能アクセス制限ファイルから装置情報を削除する

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから「機能アクセス制限」 - 「開く」を選択します。
- 3 削除したい機能アクセス制限ファイルを選択して「開く」をクリックします。
- 4 復号化パスワードおよび編集用パスワードを入力し「OK」をクリックします。



- 5 「削除」をクリックします。
- 6 確認メッセージが表示されたら「はい」をクリックします。



機能アクセス制限ファイルから装置情報が削除されます。

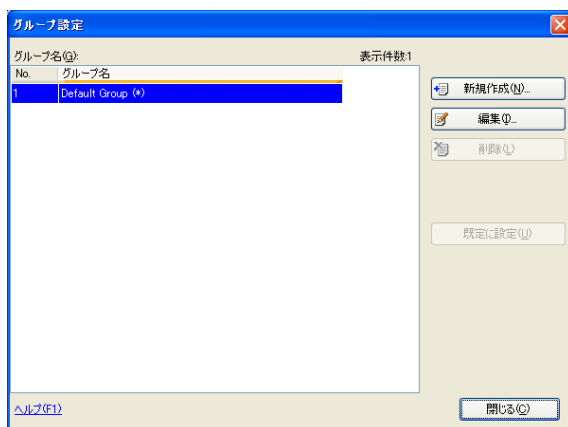
- 7 「名前を付けて保存」をクリックして、ファイルを保存します。
機能アクセス制限ファイルから装置が削除されて保存されます。

5.4 グループの設定

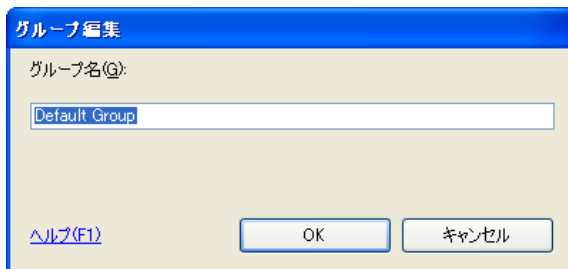
Device Set-Up で管理するグループを登録します。グループを設定すると多くの装置を管理する場合に、装置一覧リストでソートして整理しやすくなります。また、グループは最大 100 件まで登録できます。

グループを新規作成する

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をごらんください。
- 2 ツールメニューから [装置] - [登録グループ編集] を選択します。
- 3 [新規作成] をクリックします。



- 4 グループ名を設定し、[OK] をクリックします。

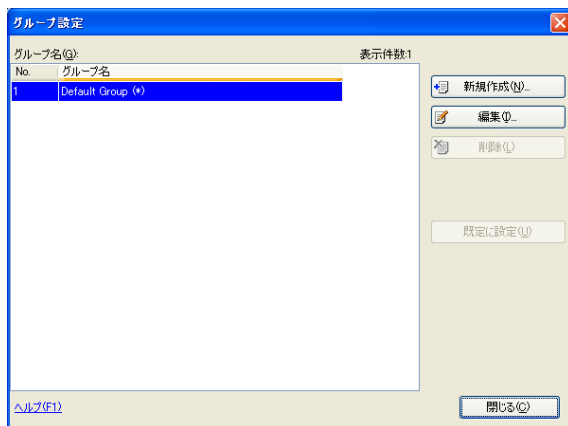


グループが作成されます。

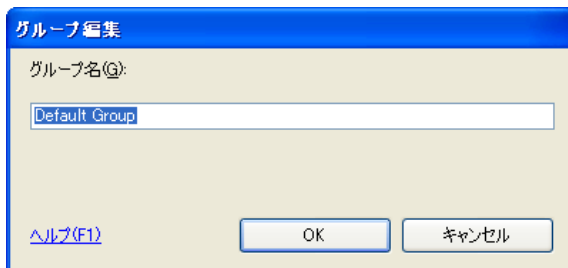
- 5 [閉じる] をクリックします。

グループを編集する

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから「装置」 - 「登録グループ編集」を選択します。
- 3 編集するグループをリストから選択し、「編集」をクリックします。



- 4 グループ名を変更し、「OK」をクリックします。

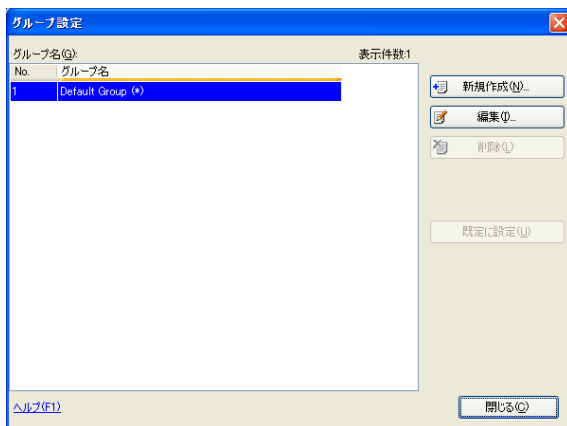


グループが変更されます。

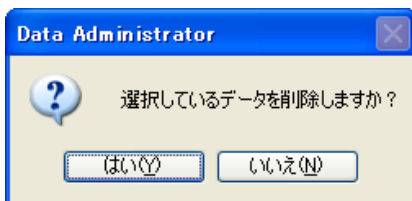
- 5 「閉じる」をクリックします。

グループを削除する

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから「装置」 - 「登録グループ編集」を選択します。
- 3 削除するグループをリストから選択し、「削除」をクリックします。



- 4 確認メッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

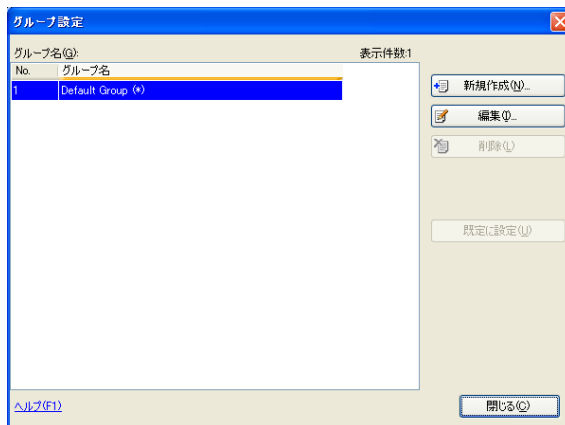


グループが削除されます。

- 5 「閉じる」をクリックします。

デフォルトグループを設定する

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから「装置」 - 「登録グループ編集」を選択します。
- 3 デフォルトのグループに設定したいグループをリストから選択し、「既定に設定」をクリックします。



デフォルトグループを示すアスタリスク（*）が表示され、デフォルトグループとして設定されます。

- 4 「閉じる」をクリックします。



ワンポイント

デフォルトグループには「*」が表示されます。

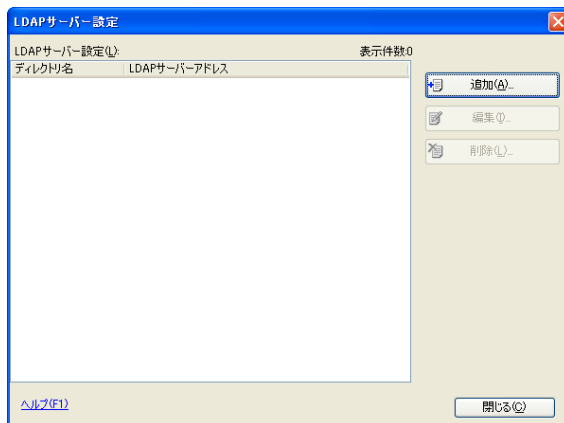
デフォルトグループは、装置を登録する場合に初期グループとして表示されます。

5.5 LDAP サーバーのアクセス設定

装置に登録する情報を読み込む LDAP サーバーに登録します。

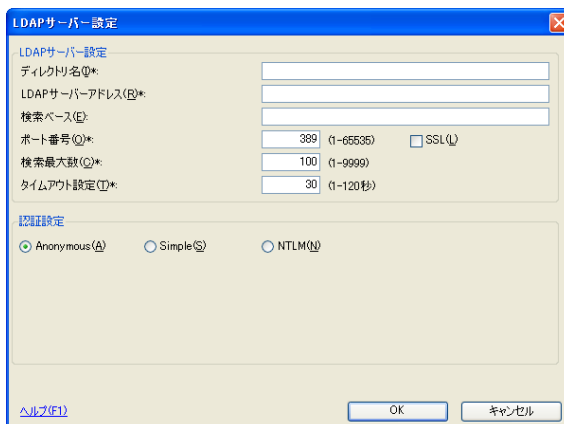
LDAP サーバーのアクセス設定を追加する

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから「LDAP サーバー設定」を選択します。
- 3 「追加」をクリックします。



- 4 LDAP サーバーのアクセス方法を設定します。

→ Anonymous を選択した場合



→ Simple を選択した場合

LDAPサーバー設定

LDAPサーバー設定

ディレクトリ名(D):

LDAPサーバーアドレス(R):

検索ベース(E):

ポート番号(P): 389 (1-65535) ☐ SSL(S)

検索最大数(Q): 100 (1-9999)

タイムアウト設定(T): 30 (1-120 秒)

認証設定

☐ Anonymous(A) ☒ Simple(S) ☐ NTLM(M)

ユーザー名(U):

パスワード(P):

パスワード確認(Y):

ヘルプ(F1) OK キャンセル

→ NTLM を選択した場合

LDAPサーバー設定

LDAPサーバー設定

ディレクトリ名(D):

LDAPサーバーアドレス(R):

検索ベース(E):

ポート番号(P): 389 (1-65535) ☐ SSL(S)

検索最大数(Q): 100 (1-9999)

タイムアウト設定(T): 30 (1-120 秒)

認証設定

☐ Anonymous(A) ☐ Simple(S) ☒ NTLM(M)

ドメイン名(D):

ユーザー名(U):

パスワード(P):

パスワード確認(Y):

ヘルプ(F1) OK キャンセル

ディレクトリ名	この設定の名前を入力します。
LDAP サーバーアドレス	ディレクトリサーバーの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。SSL 使用時は、DNS 名を入力します。
検索ベース	検索ベースを入力します。 (例) ou=sales division ,dc=ABCDEFGF ,dc=com 入力する検索ベースについては、LDAP サーバー管理者に相談してください。
ポート番号	LDAP サーバーへのアクセス時に使用するポート番号を指定します。
SSL	LDAP 通信で SSL を使用する場合はチェックします。データのセキュリティのためには SSL の使用をお薦めします。SSL を使用しないと、LDAP データが安全でない ASCII 形式でネットワーク上を送信されることになります。

検索最大数	検索時に表示する項目の最大件数を指定します。
タイムアウト設定	LDAP サーバーの送信タイムアウトを指定します。
認証設定 (Anonymous、Simple、NTLM)	LDAP サーバーのバインドの種類を選択します。 アクティブディレクトリに接続している場合は、NTLM を 選択してください。
ドメイン名	ドメイン名を入力します。Active Directory に接続している 場合は、ドメイン名の項目も入力してください。
ユーザー名	この項目は、認証方法が Anonymous 以外に設定されている ときに入力できます。
パスワード	この項目は、認証方法が Anonymous 以外に設定されている ときに入力できます。
パスワード確認	確認のためにパスワードを再入力します。

- 5 [OK] をクリックします。
- LDAP サーバーのアクセス方法が設定されます。

LDAP サーバーのアクセス設定を編集する

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をごらんください。
- 2 ツールメニューから [LDAP サーバー設定] を選択します。
- 3 編集するアクセス設定をリストから選択し [編集] をクリックします。
- 4 LDAP サーバーのアクセス設定を編集し、[OK] をクリックします。

LDAP サーバーのアクセス設定が変更されます。



...

ワンポイントアドバイス

LDAP サーバーのアクセス方法の設定については p. 5-22 をごらんください。

LDAP サーバーのアクセス設定を削除する

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をごらんください。
- 2 ツールメニューから [LDAP サーバー設定] を選択します。
- 3 削除するアクセス設定をリストから選択し [削除] をクリックします。
- 4 確認メッセージが表示されたら [はい] をクリックします。

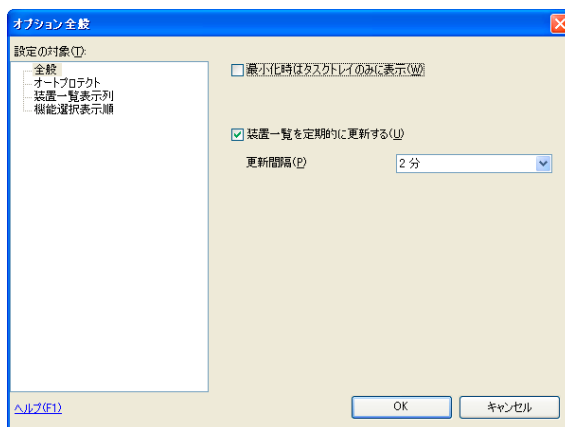
LDAP サーバーのアクセス設定が削除されます。

5.6 表示オプションの設定

オプション全般画面で、登録装置一覧などリストの表示項目を設定します。

オプション全般画面の開き方

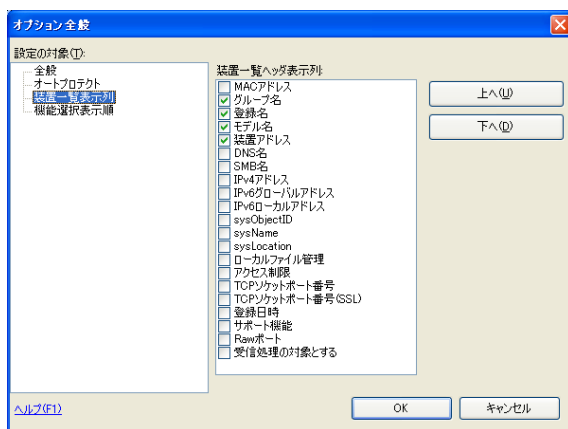
- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をごらんください。
- 2 ツールメニューから［オプション］ - ［全般］を選択します。
オプション全般画面が表示されます。
 - 設定の対象で［全般］を選択し、［最小化時はタスクトレイのみに表示］をチェックすると、画面最小表示の場合にタスクトレイのみに表示されます。
 - 装置一覧を定期的に更新するようにしたいときは、［装置一覧を定期的に更新する］をチェックし、［更新間隔］を設定します。



ワンポイントアドバイス

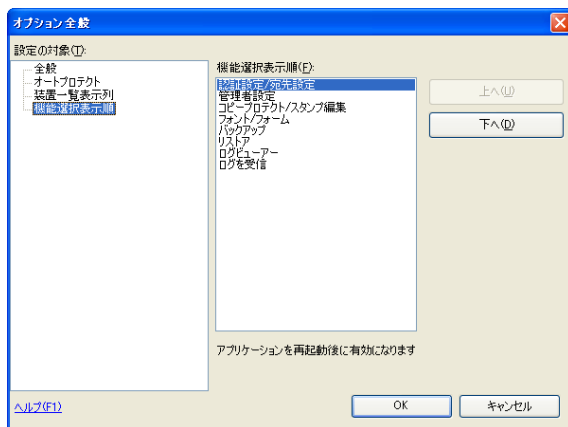
オートプロテクトについては、p. 3-1 をごらんください。

- 設定の対象で「装置一覧表示列」を選択すると、メイン画面に表示させる項目を選択できます。



装置一覧ヘッダ表示列	表示したい項目にチェックを入れます。
上へ	選択されている項目を 1 つ上へ移動します。
下へ	選択されている項目を 1 つ下へ移動します。

- 設定の対象で「機能選択表示順」を選択すると、メイン画面の機能選択フィールドの表示順を設定できます。



上へ	選択されている項目を 1 つ上へ移動します。
下へ	選択されている項目を 1 つ下へ移動します。

3 表示オプションを設定し、「OK」をクリックします。



ワンポイントアドバイス

機能選択表示順の設定は再起動後に有効になります。

5.7 ヘルプの表示

ヘルプメニューから Device Set-Up および各プラグインのオンラインヘルプを表示することができます。

ヘルプの開き方

- 1 Device Set-Up を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示方法は、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ヘルプメニューから [ヘルプ] - [Device Set-Up ヘルプ] を選択します。

インストールしている各プラグインのヘルプも表示できます。

- Device Set-Up ヘルプ
- Copy Protection Utility ヘルプ
- Font Management Utility ヘルプ
- HDD Backup Utility ヘルプ
- Log Management Utility ヘルプ
- Data Administrator ヘルプ

5.8 バージョン情報を表示する

Device Set-Up のバージョン情報を表示できます。

操作手順

- 1 Windows のスタートメニューから、Device Set-Up を起動します。
- 2 メイン画面の [ヘルプ] - [バージョン情報] をクリックします。
- 3 バージョンを確認します。



ワンポイント

インストールしている各プラグインのバージョンを確認するには、
[プラグインバージョン情報] をクリックします。

